



仕事を
続けてくれて
ありがとう。

- 子から親へのエール 2016 -

普段はなかなか伝えることができない
親への感謝の気持ちを伝える論文コンクール

受賞作品集

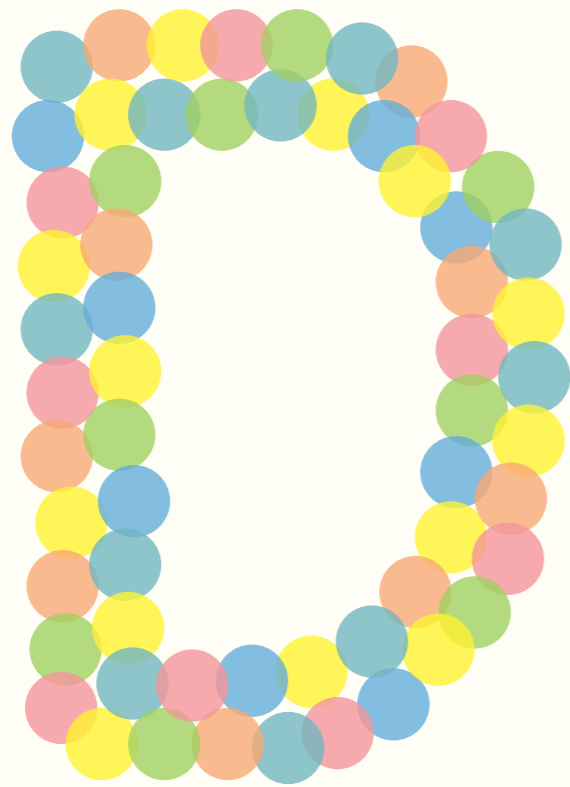
AND

男女共同参画や働き方改革、子育て支援などに注力している

企業の事例紹介

ダイバーシティ推進実行委員会おかやま
2016年12月10日発行

監修 公益財団法人みんなで作る財団おかやま / デザイン haus



驚くほど大きな ダイバーシティ 「家庭の多様性」

このエール論文は、男女共同参画の議論の中で「家庭」の視点をもう少し入れようと考え企画されましたが、論文審査を通して、私は想像を超える「家庭の多様性（ダイバーシティ）」があることに気づかされました。私が他の人の家庭のことをほとんど知らないことを痛いほど理解しました。

論文の中には、共働きやひとり親の家庭、外国籍の親を持つ子どもの家庭など多様な家庭が描かれていますが、それ以上に多様なものは、子どもが経験した家庭のエピソードです。子どもたちは、仕事がらみの親の喧嘩を一つのつらい記憶として憶えています。参観日にぎりぎり間に合った親の姿をうれしい記憶として憶えています。夜勤のお母さんが恋しくて、お母さんの香りのするパジャマを姉妹で取り合い、それにくるまって寝ていた等々、いろんなエピソードを子どもたちは経験し、うれしい思い出や、つらい思い出の“全て”を糧にして、親にエールを贈っています。

男女共同参画を推進することは企業や社会にとって望ましく、メリットを生み出すことは間違いないことです。

一方で、論文には、どの家庭も、生きるため、親、子ども、おじいちゃんおばあちゃんが、一丸となって必死に頑張っている様子が確実に描かれています。頑張っているのは働く親だけではありません。エール論文を読んでよくわかったことは、男女共同参画の推進は、仕事を持つ個人を通じて、その人の家族全員の幸せを創り出すことに直接つながるということです。

人間の認識の理論によると、人の行動は人の意識で変わり、人の意識はその人が過去に与えられた情報で変わります。ダイバーシティの意識は、人々が受け取る情報によって大きく変わり、その意識が次世代に、人の行動となって発現するという事です。多様な家庭のエピソードを共有することは、今働いている親の励みとなると同時に、次の世代の人々の幸せを生み出すことにつながるはずで

多くの方と家庭の多様性（ダイバーシティ）を共有し、議論することは、次の世代の人の幸せを生み出すことにつながるはずで

ダイバーシティ推進実行委員会おかやま
会長 寺澤 孝文
(岡山大学大学院教育学研究科 教授)

論文コンクールについて

「仕事を続けてくれてありがとう。子から親へのエール2016」と題して、仕事と家庭の両立に向けて頑張ってきた親に対して、泣いたり、笑ったりしたエピソードや親へのエールとなるメッセージを添えて、社会における男女共同参画の在り方を主に家庭の視点から考えることを目的に、高校生・大学生から論文を募集いたしました。(2016年9月～10月募集)

選考は、岡山県内の大学関係者による審査会にて行いました。今年度は、岡山県知事賞、岡山経済同友会代表幹事賞、岡山大学長賞に加え、「入賞」と、本コンクールを通じて多様性の教育推進に取り組んだ学校へ贈る「ダイバーシティ教育推進学校賞」を新たに設けさせていただきました。各賞の表彰は「学生と企業のための男女共同参画シンポジウム2016」内にて行いました。

審査委員一覧 (50音順)

岡山大学大学院教育学研究科

准教授 片山 美香

岡山県立大学保健福祉学部保健福祉学科

教授 佐藤 和順 (審査委員長)

岡山大学大学院教育学研究科

教授 寺澤 孝文

就実大学経営学部経営学

准教授 寺本 佳苗

岡山大学大学院環境生命科学研究科

准教授 樋口 輝久

「働きやすい環境づくりに取り組む企業の事例紹介」について

男女共同参画シンポジウム 2016 併設ブースにおいて、男女共同参画や働き方改革、子育て支援などへ注力し革新的な取り組みを行っている企業の活動を紹介いた

しました。本冊子では、当日ブースを出展された企業の取り組みについてご紹介いたします。

「ダイバーシティ推進実行委員会おかやま」について

男女共同参画、ダイバーシティの推進に向け、岡山大学、一般社団法人岡山経済同友会、岡山県で実行委員会を組織し、論文コンクールおよび企業の取り組み紹介を実施しました。また産官学のつなぎ役として、公益財団法人みんなでつくる財団おかやまに事務局を設置し、運営を行いました。

実行委員会構成団体

岡山大学、一般社団法人岡山経済同友会、岡山県

事務局

公益財団法人みんなでつくる財団おかやま



大学生部門
岡山県知事賞

母の仕事と私の夢

岡山大学3年 高橋 市佳

私の家は共働きで、父が家事をしない家庭であった。私は小学生の頃から、そのことに子供ながら強烈な違和感を抱いていた。それでも、私は「勉強が子供の仕事」と思い、仕事と家事を行い、いつ眠りいつ起きているのかわからない母に、全ての家事を任せきりにしていた。家庭の事情で、共働きでもお世辞にも豊かとはいえない生活の中、大学進学は難しいと言われ続けた。私の大学進学に父が反対したことをきっかけに、母と父が離縁し、更に生活は困窮した。給付奨学金などを受けることができ、無事大学に進学することが決まるまで、他の家庭と自分の家庭の違いをまざまざと見せつけられてきた私は、常に、心のどこかでは母を恨んでいたように思う。

大学生になって私は、親元を離れて一人暮らしをするようになった。新しく触れる分野の勉強に加え、サークル活動を始め、生活は充実していたが、生活に付随するあらゆる家事の大変さに気がついた。食器を洗うことも洗濯をするのも時間がかかるし、手間をとる。アルバイトを始めると、更に生活は忙しくなり、仕事をそつなくこなすことの難しさに悩んだ。お金を稼ぐことはこんなにも大変なことかと思った。勉強やサークル活動に力を入れるあまり家事や体調管理が疎かになったりもしたが、風邪をひいても骨折をしても、誰かが付きっきりで看病などしてくれない。家事と仕事などの義務を両立すること、ましてや一人きりで生きていくことでさえ、こんなにもしんどいことなのかと知った。

また、私は実学的なことを学びたいと思い法学部に進学したのだが、今の担任教員の勧めで、現在も在籍する国際法ゼミに所属することにした。そうした中で留学も経験し、国際的な価値観を養うにつれ、ジェンダー問題などに興味を惹かれるようになった。興味のまま、女子差別撤廃条約などに関する論文をいくつも読むうちに、日本の問題点が浮き彫りになってきた。日本では現在でも男女別姓や再婚禁止期間、婚姻最低年齢などの法的問題や、女性の政治活動参加率の低さの政治的問題、大きく差のある女性と男性の平均生涯賃金な

どの経済的問題など、先進国としては考えられないほどの様々な側面で問題が残っているのである。こうした社会の是正が何よりも急務であることは言わずもなだが、是正は現在でも難航している。そうした家事や育児は女性の役割とこういう性別役割分業の偏見や差別が根強く残る世界で、家事も仕事も育児も、全てやり切って私を育ててくれた母その人を思い浮かべて、私はこれを学んでいる。

大学に入って、生活の中で学んだこと、学業の中で学んだこと、全てが私の母に対する思いを変えた。自分のことしか考えず、母を一方向的に恨んでいた私は、もういない。自分のことは自分ででき、仕事にも誇りを持つ私の母ほど尊敬できる人を、私は他には知らない。多くの困難の中で、「私の母」という仕事をこれまで辞めずに続けてきてくれた母には私の人生をかけて感謝し続けていきたい。

同じ大学に所属する私の友人が、1歳年上の就職が決まった恋人に、男の自分よりも高い賃金を稼がないでほしいから、君の法律家になりたいという夢は応援できない、結婚して家庭に入ってほしいと言われ、ノーを突き付け別れた、という話を聞いた。友人はその話を、『私には私の夢があるのだ』と、笑顔で私に語った。私にも夢がある。それは、性差なく人が自由に活躍できる社会を作ることだ。その夢は、性別役割分業といった考え方や、男女共同参画の未成熟な社会にも関わらず、私の母という仕事に従事し続けてきてくれた、母の背中なくしては絶対にありえない。性別の違いに束縛されることなく自由に生きる母を、友人を、全ての人々の未来を作り、支えたい。それこそが私にできる、母への最大の恩返しであり、エールであると信じて。



高校生部門
岡山県知事賞

私の父

岡山県立岡山東商業高等学校 2年 矢部 優海

「おはよう」で始まる私の家族の毎日は、両親の協力と思いやりに溢れている。

朝、母は 2 人分の弁当を作り朝ご飯を用意し、父は仕事で疲れた体を起こして洗濯物を干す。互いに、自分の出勤時間ギリギリまで家事をしてから仕事に行く。帰宅時間が父より早い母は、晩ご飯を作って風呂を沸かし学校から帰ってくる私たちを待つ。父は、夜遅くまで仕事をしてから、私たちが待つ家に帰る。私は、そんな日常を当たり前だと思っている。

「女は、家事をしていればいい」「男は、遅くまで家族のために働いているのに」最近こういった差別用語と呼ばれるものをよく耳にする。でも、私はそれが間違っているとも間違っていないとも思わない。確かに、今の社会も少なからず、男性中心だと思う。女性が家事をするのは昔からそうだったとも言えるし、女性がしたほうが効率よく回ると思う。でも、この時代仕事のできる女性はたくさんいるし、家事が得意な男性もいるとも思う。私の母は、商品売る仕事をしている。仕事柄上すぐに誰とでも親しくなれる母は、毎晩その日あったことを楽しそうに語る。仕事が楽しいといっているようだそんな母をみて私は思う。父は家事が得意だ。料理も少しなら出来るし、はじめ書いたように洗濯だってする。部屋の片付けも一番にするのは父だし、家のことにうるさいのは父のほうだと思う。こんな家族をみて、まだそんな差別用語を使うのかと思う。私がそう思うのはきっとそんな家で育ってきたからだとは思いますが、今の社会はみんながみんなそうなのだろうか。

「男女共同参画社会基本法」初めて聞いたのは中学 3 年生の社会の授業でだったと思う。そのときは、特になんの興味もなくただそういう単語としてしか覚えていなかった。だが、つい先日その言葉を再び習うときがありその機会に私は調べてみることにした。そこに書いてあったのは、法律ができてあまり現状が変わっていないこと。女性の社会進出は増えているがまだ男性の方が優遇されていると考える人が多いこと。

私は父に聞いた。「なんで社会の差別は、消えないんだろう」とすると父は、一言でこう答えた。「差別なんてないよ」と。続けて言った父の言葉がひどく私の胸を打った。「ママが、仕事して帰ってきて毎日家事してパパは遅くまで仕事するだけじゃろ？簡単に考えたら、ママの方がたくさん仕事しとるが。パパが帰って来るまで寝ないで、朝は一番に起きて。労働時間はママが一番長いんよ」って。みんながこういった考え方をする社会がいつか来るといいなど、初めて思えた瞬間だった。

私は以前から、母の血を継いだと思う私の性格を考えて、人と関わる仕事に就きたいと思っていた。今は将来、教師になりたいと思う。その大半の理由は父だ。私の父はすごい。とても分かりやすく物事を教え、それを必ず理解させる。1 つの教え方じゃなくて、いろんな教え方をして。そんな父だからこそ「差別なんてないよ」っていうことが出来るのだろうと。私が考えても考えても分からなかった、誰もが満足できる答えを出せたのだろうと。私が教師になりたいとはっきりとそう思ったのは、きっと悔しさからきたものだろう。父には「やめておけ」と笑われている。しかし、頑固で負けず嫌いな私のことだ。きっと夢を実現するんじゃないかと思う。父親譲りの声の大きさと母親譲りの誰とでも親しくなれる性格。そんな私の未来を想像すると、なぜか夢を実現している姿が目に見えかき笑ってしまう。

「パパ、いつもありがとう。」そして、私にはっきりとした夢を目標をくれてありがとう。いつも怒らせてばかりでごめんなさい。私のもっと大きな夢はいつかあなたを抜かすこと。また、無理だって笑うんだろうけど。少し上からかもしれないけど、パパは私の誇りです。



大学生部門

岡山経済同友会代表幹事賞

私のミカタ

岡山大学3年 川上 聡子

私が大学1年生になった夏に、父が亡くなり、私の家は母子家庭になりました。現代社会では、母子・父子世帯は珍しくはなく、周りにもひとり親の家庭がありました。しかし、いざ自分の身に起きると突然すぎて現実味はなかったのですが、日常生活の様々な瞬間に父がもういないことを感じざるを得ませんでした。

実は、私は高校の3年間は親元を離れ、県外で寮生活を送り、大学生になって地元に戻ってきました。両親は共働きで経済的に余裕があるとは言えない状況の中、私を第1志望の高校に送り出し、卒業させてくれたことに心の底から感謝しています。だからこそ、大学生活では親孝行をしようかと決意していましたが、両親と暮らし始めて間もなく父の余命宣告を受けました。

8月上旬、父の病状が悪化したため、母と弟と私の3人で病室に1晩泊まりこみました。

父はほとんど会話できる状態ではなく、私たちは辛そうにしている父の足や腰、腕をさすることしかできませんでした。その時、体がボロボロになるまで仕事をやり続け、家族を支えるという私たちには分からない大きなものを背負っていた父の偉大さを実感しました。同時に、はじめて父の辛さや大黒柱として家族を守ってくれていた思いをきちんと受けとめることができたと感じます。そして、毎日どこか寂しそうに夜仕事に出る父の背中を思い出し、ただただ涙がとまりませんでした。

私と父は、家族の中で性格がよく似ていて、私は小さい頃から父のやることを真似したり父が好きなものが好きでした。思春期には、父に冷たい態度で接することもありましたが、本当は父が大切に思ってくれていることを素直に受けとめられていないだけでした。父の行動や言葉には、怒る時も笑う時も、いつも私たちの成長や幸せを願う思いが根底にあったと感じます。父は私たちを幸せにすることに一生懸命であったと思うからこそ、私が思い出す父の表情はいつも笑顔です。

振り返ると、父は私の長所、努力する姿勢を認め、誰よりもほめてくれていて信じてくれていた存在でした。そんな父がいたから、私は私らしく、今も自分に自信を持てるのだと思います。

父が亡くなった年に、母は勤めていた会社の倒産により転職し、新しく営業の仕事を始めることになりました。私は、明るく元気で常に前向きに、人の幸福を考えている母の姿を見ながら、もっと母の良さが発揮できる場で活躍することを願っていました。そのため、現在、試行錯誤しながらも今まで経験したことのない分野に母が挑戦していることをとても嬉しく感じています。また、大黒柱という父の役割を担うだけではなく、自らの人生をより素晴らしく充実させている母の生き方はたくましく、輝いて見えます。仕事と家庭を両立することは決して当然のことではありません。しかし、母は苦勞を苦勞と思わないで家族のために全力を尽くしてくれています。それは、母が何事も自分の人生の糧として、受け入れ前へ進み続けているからだと思います。私も母のように自然に人を幸福にする、ささやかな愛を与える人生を歩みたいです。

私は父と母が支え合う、両親の愛の傘に守られていたと感じます。男女共同参画社会基本法の第3条には男女の人権が尊重されること、第6条で男女相互の協力と社会支援の下、家族の一員として役割を果たすことが規定されています。そのためには、理解し、認め合う気持ちが大切です。特に現代は、男女間で線引きされた役割に縛られることなく、家庭と社会で一人ひとり生きる強さが必要であると思います。それは、決して1人ただ自由に生きればよいという意味ではありません。誰もが家庭の中で垣間見ることがあるように、生きることが誰かのためにつながる生き方をすることです。私の家では、両親はお互いに良き相談相手であり、父が母、母が父の発電機のようにっており、お互い励まし合い、協力していました。私にとって、父と母は、いつも目指すべき目標であり、正義の味方のようなあこがれでありながら、常日頃から横で寄り添ってくれている味方です。



高校生部門

岡山経済同友会代表幹事賞

私の「普通」にありがとう

岡山県立岡山操山高等学校 2年 間部 実宥

男性だから、女性だから、という考えは現代社会の中で果たして通用するだろうか。私は決してそう思わない。

私の家は、ほかの家とはどこか違う。そうははっきりと実感するようになったのは中学のころだったと思う。私の両親は共働きで、2人とも出張で県外へ行くのは珍しくなかった。小さいころからそれが我が家の日常で、私にとっての当たり前だった。

私が中学生になったとき、母が東京で仕事をするようになった。いわゆる単身赴任だ。それからは基本、父、私、妹の3人で生活していた。父は、料理も洗濯も掃除も、時には裁縫まで、あらゆる家事をこなしていた。週末には母も帰ってきたが、特に苦労することもなく、母が帰ってくるまで約4年間を、こうやって過ごしていた。

私のいる学校には給食がなく、皆基本的に弁当である。ある時、友達とお昼を食べていると、友達が私のお弁当を見て「そのお弁当、お母さんが作ってくれたの?」と聞いてきた。私が「ううん、これはお父さんが作ってくれた。」と言うと、友達は、お父さんすごいね、と言ってきた。その時はただ疑問に思ったが、父親がここまで家事をすることは珍しいことだったのかもしれない。

少し前から、育児をする男性を「イクメン」と呼ぶことがある。ただ私は、なぜそこに注目するのだろうかと思った。『父親も育児に参加しよう』というような言葉に疑問を覚えた。私の常識の中において父親が家事をしているのは普通のことだ。父親は仕事をし、母親が家事をする、というのは未だ根付いているということだろうか。

我が家のことを考えると、2人とも仕事をするし、2人とも同じように家事をしている。どちらかしか役割がないのではなく、その日の状況に応じて、役割は変わっている。

お母さんが東京でお仕事なんて大変ね、お父さんが家のこともしているなんてすごいね、と今までよく言われてきたが、私はそうは思わなかった。お母さんは確かに東京にいて、家にはあまり帰ってこなかったけど、家は普通に過ごせていたし、お父さんが家事をするのは特別なことでも何でも無い。何ら不思議なことはない。

でも、毎日忙しい中、家に早めに帰って晩ごはんを作ってくれて、いろんな家事をこなしている父には、本当に感謝している。母が東京にいる間に、父はPTA会長になって、今まで以上に忙しくなった。にも関わらず、それまでと同じように仕事をして、家事もしている父のことがかっこいいと思った。

4年間、東京で仕事をしてきた母も、週末は必ず家に帰ってきてくれた。土日の2日間を家で過ごすために新幹線で3時間かかる道を、毎週帰ってきてくれた。

お父さん、仕事も家事もお疲れさま。いつも私たちに優しく笑いかけてくれるお父さんが、私も妹も大好きです。

お母さん、東京での4年間、本当にお疲れさま。毎週末、忙しい大変なはずなのに帰ってきてくれたお母さんが大好きです。

お父さんとお母さん、毎日毎日仕事が忙しいと思います。お母さんは仕事も変わったし尚更だと思います。ここ最近、2人とも夜早めに帰ることはなかなか難しそうだけど、それでもいつも笑顔で私たちを抱きしめてくれる2人が大好きです。土日なんかは4人で固まってるだけでも、ものすごく幸せです。私や妹をここまで支えてくれて、そしてこれからも支えてくれる2人に心から感謝しています。そんな2人をこれから支えていけるよう、私もがんばりたいと思っています。いつも、本当にありがとう。



大学生部門
岡山大学長賞

家族のかたち

就実大学2年 小林 真紀

私は、母はいつも父に振り回されて「かわいそう」だと思っていた。世の中には、それぞれが協力し家事を分担して生活を行っている家族もある。私の家はどちらかというと母に家庭の仕事が集中している。

男女共同参画社会を実現する柱の1つに、男女が対等な家族の構成員として互いに協力し、家族の役割を果たすことが掲げられている。私の家はそのような「協力」関係がないように感じていた。

私の父は高校教諭であり吹奏楽部の顧問でもある。部活動があるため、平日は夜遅く帰宅し休日も家にいることがほとんどない。私が幼い頃は、私が寝たころ父が帰ってきて、起きたころには家を出ているという日々が続いた。同じ家に住んでいるのに姿を見ない、顔を合わせないことが多かった。

母はピアノ講師の仕事、家事、子育ての3足のわらじを履いていた。父が家事や子育てに関わらない分、それを埋める母の存在は大きかった。母は、毎朝早い時間、夜は仕事終わりに姉達の部活の送り迎えをした。運動部に所属している私に気遣った栄養バランスのある食事を作り、父のサポートもした。母は自分のことよりも家族を優先した。

ある日の母の姿と何気ないやりとりが、私の考えを変えた。母は父の演奏会やコンクールの演奏を毎回聴きにいっている。あるコンクールで全国大会の出場が決まったとき涙を流して喜んでた。その時「今までしんどい思いをしてきたのをずっと見てきたから本当に嬉しい」と話していた。私はこれまで見たことのない母の涙とここまで思いを込めて応援していたことを知りとても驚いた。また、母は「お母さんは社会にでて輝きたいとは思わない。お母さんが輝くよりも、みんなが輝いてくれることが嬉しい」という。

父が自分の仕事に100%集中し、吹奏楽を頑張り続けているのはそのような母の思いを受け止めているからだろう。父に言われたことで印象に残っている言葉

がある。それは、高校の進路を決める時期のことであった。私の家族は私以外みんな音楽をしている。父は吹奏楽部の顧問。母はピアノの先生、姉2人は吹奏楽部。私だけがバドミントンをしている。家族の中で唯一音楽と無縁の生活をしてきた。気にしまいと思っても周囲の友達や大人に言われ家族との方向性の違いに悩む時期もあった。バドミントンを頑張りたけれど、このまま家族と違うことをしていいのかと思うこともあり、なかなか進路を決めることができなかった。ある日、父からふと「真紀の一度しかない人生だから自分のしたいようにすればいい、お父さんはいつでも応援する。」と言われた。今まで相談もしたことがなかったのに言われて驚いたが、それと同時に私が気づけてないところでちゃんと気にかけてくれていることが分かりとても嬉しい気持ちになった。そうして、吹奏楽を全力で頑張っている父の姿をみて私もバドミントンを全力で頑張りたいと思い進路を決めることができた。

父が仕事に集中できるよりよい環境を作ることで、父と母両方が輝ける家族のあり方になれるのだと感じた。「男女が対等な家族の構成員として互いに協力する」ということは家族生活での子育て、家事など目に見える仕事を均等に割り振ることでなく、それぞれの家族に合ったそれぞれの役割があり、その役割を一生懸命果たして協力していくことが、幸せな家族の形態なのだろうと思う。その役割が「仕事」であると思う。母が裏方に徹したいという気持ちを持つのは、もともと持っていた個性なのか、そのように教育されたからなのかはわからない。しかし、今は、母はかわいそうだと思わない。母は求めるものを得るために家族の「仕事」を懸命に行い、父はその期待に応えるために高校の「仕事」を頑張っている。

そして母と私達3姉妹は、父をいつまでも部活動を頑張る「大きな高校生」を見ているような気持ちで応援し続けている。



高校生部門
岡山大学長賞

毎日お疲れ様

岡山県立矢掛高等学校 2年 守屋 琴音

私が物心ついた頃には、両親は働いていた。母が保育士として働き始めたのは私が2歳、妹が0歳の時だった。そこから保育園生活が始まる。保育園は楽しく先生も優しく大好きだったが「もっとお母さんと一緒にいたいのになんで保育園の子どもを見るの？」と幼ながらに思っていた。しかし両親は、家族の団欒を大切にしたいと時間を作ってはお弁当を作って遊びに連れて行ってくれた。

小学生になると、少しながら心も体も成長していった。授業の一環で親の仕事について学ぶ機会があった。このとき母に保育士の仕事の話をしてもらった。楽しそうに話す母を見て、仕事もして家に帰ると家事をする姿に大変だなと思った。と同時に、仕事に誇りを持っていることに気づき「保育士っていいかも」と私の小さな夢になっていた。

月日は流れ、何も変わらない平凡な日々を過ごしていたある日、事件が起きた。私は中学2年生、妹は小学6年生だった。その頃母は忙しく疲れて帰って来たために無口になり、家事をすることで家族の会話がなくなってきた。その時、母が交通事故に遭ってしまった。そこまで働かなくてもいいのにとふと感じてしまった。

そこから母のいない生活が始まった。父は毎朝早く仕事に出かけるにも関わらず1日も欠かさず私たちの朝食を用意してくれた。そして疲れて帰って来ても嫌な顔一つせず、夕食を作ってくれた。私たちも少しは役に立ちたいと家事の手伝いを率先して行った。父の負担を減らすために。そして毎日入院している母に私たちの頑張りが伝わるように。壊れかけていた家庭にも会話が増えまた普段通りの生活に戻った。

今まであたり前にあった笑顔や会話がなくなったときとてつもなく悲しかった。泣き出しそうな妹を見るのがつらかった。でも今になって確かに両親に伝えられることがある。「あの経験は無駄じゃなかったよ」って。思い出すたびに胸が押しつぶされそうになるけど、そのおかげで絆が深まった私たち家族。あの経験があったからこそ、働くことにも家事にも全く妥協しない両親の大きな姿を知ることができた。そして大切にしてきたものが家族だけでなく仕事もだったことは、私たちにあきらめない力と努力の大切さを教えてくれた。両親の仕事に対する熱意を知り、2人の働く姿に誇りを感じている今、自分も「やらなきゃ」と小さな夢から大きな夢に変わった保育士を目指して頑張っている。妹は、両親の背中を見て、自分のやりたいことを見つけようとしている。そして受験に向けて勉強に励んでいる。やはり、両親の影響は大きかった。大きくなるとなかなかはずかしくてどこか照れくさくて素直に言えないけど、私の両親に対する想いとあふれるほどの感謝の気持ちを強く伝えたい。

「いつもありがとう。これからもよろしくね。」

この想い伝わりますように。



入賞

大学生部門

就実大学 3年生
中島 彰汰

中国学園大学 4年
渡久地 志帆

ノートルダム清心女子大学 3年
片岡 茉莉亜

高校生部門

岡山学芸館高等学校 1年
濱田 莉緒

岡山県立岡山東商業高等学校 2年
黒住 洸斗

金光学園高等学校 1年
荒島 美音

金光学園高等学校 1年
池田 弦輝

金光学園高等学校 1年
飛田 さつき

金光学園高等学校 1年
這禽 彩香

明誠学院高等学校 2年
山地 周作



ダイバーシティ教育推進学校賞

岡山学芸館高等学校

岡山県立岡山東商業高等学校

金光学園高等学校

明誠学院高等学校

(50音順)

男女共同参画や働き方改革
子育て支援などに注力している
企業の事例紹介

NECソリューションイノベータ

NECソリューションイノベータ株式会社

取り組み内容

激変する社会情勢の中、先進的な技術力でイノベーションを生み出し続けるためには、「多様な価値観をもつ人材の活用」＝「ダイバーシティ推進」が不可欠と考え、各種取組を各地域で行っています。

< 女性活躍推進 >

- ・地域ディスカッション
(働き方、キャリアについて考える)
- ・女性管理職との懇談会
- ・両立支援セミナーの開催
「仕事と育児の両立の心構え」

< 働き方改革 >

- ・仕事の質を高める『働き方改革』セミナー開催
- ・「介護」セミナー開催

事業内容

システムインテグレーション事業、サービス事業、
基盤ソフトウェア開発事業、機器販売
URL www.nec-solutioninnovators.co.jp



くるみん

当社は、2010年10月12日に次世代育成支援認定マーク「くるみん」を取得しました。現在は、さらに両立支援を進めるべく、新たな行動計画を策定し取り組んでいます。



上：地域ディスカッションの様子
下：取得したくるみんマーク

everlth

株式会社エバルス

取り組み内容

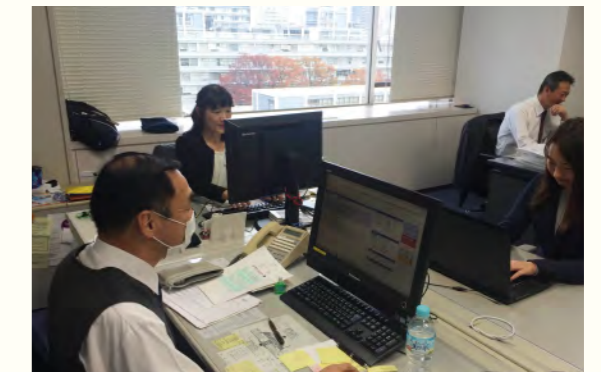
エバルスは1657年に岡山県倉敷市で創業した医薬品卸売企業です。「おかやま子育て応援宣言企業」として岡山県に認定されており、育児休業制度に関する資料の作成、周知徹底や育児休業後復帰社員をサポートする教育訓練制度を策定し実施しています。

一例として、今年8月育児短時間勤務の可能期間を満三歳から小学校6年生終了時まで延長しました。また、介護休業および介護短時間勤務についても2年間までの延長を決定しました。

働く意欲のある人が年齢や性別にとらわれず働きやすい環境をつくるため、今後も積極的に育児、介護支援や女性社員の活躍を推進していきます。

事業内容

医薬品・医療機器・試薬・福祉関連などの卸売
URL www.everlth.co.jp



上：女性管理職も活躍
下：ミーティングの様子

株式会社岡山村田製作所

取り組み内容

- ①リフレッシュデーの設定
毎週水曜日をリフレッシュデー（ノー残業デー）としています。
- ②短時間勤務制度
満3歳に達するまでの子を養育する場合は1日120分、満3歳から小学校1年生年度末までの子を養育する場合は1日60分を限度に勤務時間を短縮することができます。
- ③育児休職者交流会
年1回、育児休職者に対して、社内の周知事項共有や育児休職者同士の情報交換を目的に交流会を実施しています。
- ④夏休み子ども参観日
従業員の子どもに両親が働いている職場や仕事の様子を見学する機会を設けることを目的に、夏休みの期間に子ども参観日を実施しています。

事業内容

当社は村田製作所グループにおいて、移動体通信機器市場をメインターゲットとする主要製造拠点です。最新の電子デバイスを設計・供給することを通じて、もっと「つながる」社会の実現に貢献しています。
URL www.murata.co.jp/okayamamura/



上：育児休職者交流会の様子
下：夏休み子ども参観日



片山工業株式会社

取り組み内容

- ①事業所内保育所（おもいやり保育園）を2013年に開園。会社に隣接しているため、出退社に合わせて送迎できるなど、社員が安心して仕事と子育てを両立できる環境を整えている。
- ②柔軟な働き方ができるよう非製造部門でフレックスタイム制度を導入
- ③育児短時間勤務を小学校就学前までに拡大
- ④看護休暇・時間外勤務の制限（1ヶ月24時間以内）の適用範囲を小学校3年生修了までに拡大
- ⑤仕事と家庭の両立を支援するため、毎週水曜日・金曜日を「ノー残業デー」に設定。
- ⑥失効する有給休暇を育児等で使用できるように積立有給休暇制度を導入
- ⑦男性の育児休暇奨励（取得実績2名）
- ⑧家族を対象とした職場見学会「Katayama ファミリーデー」を開催

事業内容

各種自動車用部品、福祉機器、ウォーキングバイシクル、金型・専用機等の製造、及び弁当の調理・宅配 ほか
URL katayamakogyo.jp



上：おもいやり保育園でのクリスマスイベントの様子
下：片山工業本社社屋



株式会社キャリアプランニング

取り組み内容

- ＜子育て支援の取り組み＞
- ・育児休業期間を1年1ヶ月まで延長
 - ・育児短時間勤務制度を子が満10歳に到達する学年度末まで延長
 - ・子の看護休暇制度を子が満10歳に到達する学年度末まで延長
 - ・育休期間中にWEBシステムを利用し、社内情報の情報発信を実施（週1回）
 - ・半年に1度、育休者や復帰者が集まる情報交換会（ママ会）を実施
 - ・子供も一緒に参加できる社員旅行の実施
 - ・男性の育児休業や看護休暇取得の推進
- ＜働き方改革の取り組み＞
- ・全社一斉のノー残業Dayの実施（ヒト磨きの日）、部署別のノー残業Dayの実施
 - ・研修の実施（ワークライフバランス研修、タイムマネジメント研修、5S研修、パソコンスキルアップ研修）

事業内容

人材派遣事業、有料職業紹介事業、教育・研修・コンサルティング事業、アウトソーシング事業
URL www.capl.co.jp



上：育休者や復帰者が集まる情報交換会（ママ会）の様子
下：おかやま子育て応援宣言企業 岡山県知事賞受賞の様子



新日鐵住金株式会社

取り組み内容

当社においては、多様な人材が力を発揮するために、職場環境の整備はもちろん、家族も含めた生活環境の整備に力を入れています。社宅や独身寮を完備するほか、育児・介護などのための休暇・休業制度や、従業員が各自選択した育児関連サービスなどの一部費用を会社が補助するワークライフ・サポート制度といった多彩な制度を用意しています。また2016年4月からは、ライフステージサポートに関する諸制度の一部を拡充するとともに、大分製鉄所に24時間対応の保育所を開設しました。子育て期にある社員、とりわけ社会的受け皿の乏しい男性・女性の交替勤務従事者の就労支援を充実させ、今後他の製鉄所でも順次開設していく予定です。

事業内容

当社は生産量世界トップクラス、国内1位の鉄鋼メーカーです。鉄は、自動車や家電からインフラまで、あらゆる場面で利用される基幹素材です。私たちはビジネスを通じ、世界中の産業と人々の暮らしを支えています。
URL www.nssmc.com



上：女性意見交換会（組合活動）
下：大分製鐵所の保育所





損保ジャパン日本興亜

損害保険ジャパン日本興亜株式会社

取り組み内容

当社は国内で正味収入保険料が最も大きい損害保険会社であり、会社の原動力が女性だと考えています。2020年度までに女性管理職の比率を30%に高める取り組みをしており、キャリアアップの為に制度が充実しています。中でも女性職員の産休育休利用者数は年々増加しており、「育休者フォーラム」で上司や同僚と意見交換し、会社全体で育児を応援する風土を作っています。他にも配偶者転居に伴う部署異動が出来るキャリアトランスファー制度、希望の業務に挑戦できるジョブチャレンジ制度、ジョブ交流制度も整っています。現在は男性職員の育児休暇取得、そしてワークライフバランスを充実させるため在宅勤務やシフト勤務の活用も積極的に推進しています。

事業内容

損害保険事業

1. 損害保険の引受
2. 損害調査および保険金の支払い
3. 新商品の企画・開発
4. 資産運用
5. 国際関連事業
6. その他各種事業

URL www.sjnk.co.jp



上：育休フォーラムの様子
下：女性活躍パワーアップ大賞表彰式

T&D情報システム株式会社

T & D 情報システム株式会社

取り組み内容

T & D 情報システムでは、ワークライフバランスの推進に取組み、性別の差なく活躍できる職場環境・企業風土をつくっています。昨年は、従業員ひとり一人が生き生きと働くためには、家族の理解と協力が必要と考え、従業員のお子さんに、お父さん・お母さんが働いている職場を見学し親子間での相互理解とコミュニケーションを深めてもらうことを目的に「こども職場見学会」を開催しました。当社は、これからもワークライフバランスの推進に取り組みます。

< 具体的な取組み >

- ・適正な労働時間と計画的な有給休暇取得促進
- ・女性社員だけでなく男性社員の育児休業取得を促進し法律が求める基準を上回る育児休業制度や短時間制度

事業内容

T&D保険グループ(太陽生命、大同生命、およびT&Dフィナンシャル生命)の業務システムの開発・保守・運用管理など(業務システム例：個人保険、企業保険、資産運用、営業管理、人事・経理、基盤の各システム)

URL www.td-system.co.jp



上：推進メンバーによる検討会の様子
下：Work Style Change ポスター

TENMAYA

株式会社天満屋

取り組み内容

9月より勤怠管理システムを導入し、これまでタイムカードで集計していた勤怠状況がリアルタイムで分かるようになった。これらのデータをもとに、時間外勤務が集中しているメンバーや部署はないかを月ごとに確認し、スピード感をもって現状把握とその対策に取り組んでいる。

当社の特徴である長期連続休暇(年2回の8連休)と年次有給休暇の取得促進ため、全社員が期初に上長と計画を確認する。また、有休については今年度より5日間の計画的付与を行った。

これらの取り組みにより、主任クラスの女性比率は60%とワークライフバランス推進に一定の成果を得た。今後は、男女問わず多様な働き方のニーズに応え、1人ひとりがキャリアを自ら選択できる会社のあり方を追求する。

事業内容

創業から188年。岡山・広島に百貨店を6店舗を展開。『ありがとう』があふれる地域一番の“おもてなし感動デパート”を会社ビジョンに、地域密着型の店舗づくりを追求。中国地方ではNo.1のシェアを誇る。女子陸上競技部の活動もさかん。



上：育休育短懇談会
下：こども参観日(水族館)

東京海上日動火災保険株式会社

東京海上日動火災保険株式会社

取り組み内容

東京海上日動では、性別・年齢・国籍・障がいの有無や、働き方・雇用形態などの条件の違いに関わらず、社員がいきいきと働き、意欲と能力を最大限発揮できる環境が必要であるという認識のもと、ダイバーシティを推進しています。

特に女性の活躍推進については、弊社社員の約半数が女性であることから、女性社員の活躍、成長を実現させることが社会の変化に柔軟に対応し、お客様のご期待にお応えし続けていくことにつながると考え、積極的に取り組んでいます。

今後も女性社員が自律的にキャリアを構築することができるよう、女性の活躍推進「Next Challenge」を掲げ、さまざまな制度や仕組み、チャレンジの場を提供し、女性の活躍推進の取り組みを加速させます。

事業内容

国内・海外営業(損害保険の引受)、損害サービス(損害の調査、保険金の支払)、商品開発、営業支援、資産運用、情報システム、一般管理など

URL www.tokiomarine-nichido.co.jp



上：仕事と育児の両立について相談出来るママメンター
下：なでしこ銘柄受賞



日本生命保険相互会社

取り組み内容

当社は、人（職員）が最大の財産であるとの認識のもと、“意欲的・前向きに働ける環境整備”“闊達な組織・風土の醸成”“ダイバーシティの推進”に努めています。具体的には、両立支援のために、育児・介護短時間フレックスタイム制の導入など各種支援制度の整備、セミナー開催、ハンドブックの提供を行い、安心して仕事を続けキャリアアップを目指せる環境づくりをしています。また、各種休暇取得の推進や、男性職員・管理職の意識改革を進め、男性育児休業取得を3年連続で100%達成しています。女性の活躍推進に向けては、女性自身に対するキャリア形成支援と、管理職・男性の意識改革を両輪として、さまざまな取組を行っています。

事業内容

個人および企業向け各種保険の引受け・保全サービス、有価証券投資・貸付・不動産投資など受託資産の運用、付随業務

URL www.nissay.co.jp



上：女性課長相当職情報交換会
下：産育休中職員向け ウェルカムバックセミナー

人と地球のいのちを守る



株式会社モリタホールディングス

取り組み内容

ダイバーシティ推進室を中心に、全社一丸となって働きやすさ改革に取り組んでいます。取組の3本柱は「採用」「人財育成」「制度改革」です。

採用では、年間採用数の4割以上を女性とする、という数値目標を掲げて取り組んでいます。

人財育成では、女性リーダー育成研修や全管理職対象のダイバーシティマネジメント研修などを実施しています。

制度改革では、キャリア継続を支援する「時差出勤制度」「昇格要件特別措置」や、仕事と育児の両立を支援する「特別有休制度」などを充実させています。

これらの取組が着実に風土として根付き、女性社員の産休・育休取得率は100%、さらに、女性社員の約3割が係長以上の役職をもって活躍しています。

事業内容

国内シェアNo.1の消防車トップメーカー。100か国以上へ納入実績があり、グローバルに事業展開しています。「人と地球のいのちを守る」ため、安全安心な社会に貢献するモノづくりを行っています。

URL www.morita119.com



上：女性リーダー研修
下：ご家族職場見学会の様子



リコージャパン株式会社

取り組み内容

顧客ニーズの変化・多様化に対応し「顧客起点」を強化し、多様な人材が個性・能力を最大限に発揮し企業価値の向上に繋がっていくように、ダイバーシティ推進とワークライフ・マネジメントを経営戦略の一つと位置づけています。

＜男女共同参画に向けた取組内容＞

①仕事と家庭の両立支援

子育てサポート企業として「くるみん認定」を取得、育児介護休業法を上回る制度（短時間勤務等）を整備し、ガイドブックやツールを用い、取得しやすい環境整備に努めています。

②男女が共に働きやすい職場環境づくり

職場環境や社員意識に関する社員アンケートの実施やリフレッシュ休暇、記念日休暇制度等により、男女が共に働きやすい環境づくりに取り組んでいます。

③女性の能力活用

ポジティブアクションとして女性管理職候補者育成研修や対象社員の上司研修を行っています。

事業内容

リコー複合機やプリンターなどの画像機器や消耗品およびICT関連商品の販売・機器保守と関連ソリューションの提供。様々な業種におけるお客様の経営課題や業務課題の解決を支援する各種ソリューションの提供。

URL www.ricoh.co.jp



女性管理職候補者育成研修の様子



株式会社両備システムズ

取り組み内容

・妊娠した社員が妊娠判明後、どの時点からでも休暇を取得することができる「出産準備休職制度」を創設し、早期の休暇取得を支援しています。

・子どもとのふれあいと家族団らんを増やすために、「週1回のノー残業デー」「アニバーサリー休暇」「ブリッジホリデー」を導入しています。

・介護や育児を両立させる働き方を支援するため、在宅勤務制度、フレックス制度を導入しています。

・出産等で退職される方で両備グループ内の各社への再就職を希望する社員を対象とした「再就職登録制度」を導入しています。

事業内容

ソフトウェア開発、情報サービス、アウトソーシング、コンサルティング、パッケージシステム販売、インターネットデータセンター運営など

URL www.ryobi.co.jp



上：ママさん社員を交えた女性社員意見交換会
下：両備システムズ岡山本社社屋